

第21回 能美市タウンミーティング（能美市連合壮年団）

平成30年 2月25日（日）17:00～

辰口福祉会館

【司会】

ただいまから、能美市連合壮年団タウンミーティングを始めさせていただきます。まず初めに、能美市連合壮年団団長よりご挨拶をいただきたいと思います。

【能美市連合壮年団団長】

日ごろは、いつも連合壮年団の活動に参加いただきまして、ありがとうございます。きょうも日曜日のお忙しい中、たくさんの方に参加いただきまして、ありがとうございます。

12月に、連合壮年団事業の『地域づくりの集い』で、『これから10年のまちづくり』をテーマとしてグループワークを開催しました。今日は、皆さんで話し合ったことについて、いろいろ意見交換をしていきたいと思っています。

ことし1年、いろいろ活動していく中で、壮年団のあり方をこれから考えていく中で、きょうはすごく意味のある事業になると思いますので、きょうはざくばらんに皆さんのご意見を出していただき、意見交換をしていただきたいと思います。

【司会】

次に、井出市長がご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

きょうはせっかくの機会ですので、少しだけ能美市のことを皆様にご紹介したいと思います。

まずは、このたびの大雪に際しまして、皆様方にも大変なご不便と、そしてご迷惑をおかけしたのではないかなと思います。そして除雪に際し、ご協力、ご理解をいただきましたことにも御礼を申し上げます。

ことしの雪というのは、昭和56年以来37年ぶりの久方ぶりに大雪に見舞われたということ、それから、県が設置する雪の量をはかる機械では辰口の庁舎のそばで120センチを記録し、本当にいろんな被害が出ました。除雪費も当初は約9,000万円を予定していたのですが、さらに2億円を上増ししました。恐らく雪が解けてくると、いろんなところに支障が出てくるのではないかということで、今回のことを教訓に雪害対策ということを見直していき

と思っています。

(パワーポイントを使用)

タウンミーティングというのは、私にとっては現地現場主義、市民ファーストという自身の政治をやっていく上での礎となるもので、きょうで21回目ということになります。

能美市というのは、皆さんご存じだと思いますが、平成17年に合併して以来、人口は伸びており、今は5万150人台です。そして、税収も合併以来ずっと伸びてきています。

能美市は面積が84平方キロメートルで人口密度が596人です。合計特殊出生率というのは、女性が生涯に産むお子さんの人数であり、男性と女性がいてお子さんが生まれるので、これが2でないと自然減になってしまいます。日本の平均は1.45ぐらいで、一番人口が多い東京は1.1ぐらいなので日本全体で人口が減ってきています。能美市は1.73、これは県内2位です。

それから、能美市では女性が頑張っています。きょうは男性がたくさんいらっしゃいますが、女性就業率は52.2%です。石川県は全国で第2位、能美市は県内で第4位です。工業製品出荷額は県内で第4位と、ものづくりのまちということの裏づけであります。おかげさまで全国住みよさランキング、4年連続トップ10入りを果たしました。それから、健康づくりといいまして、厚生労働省が認定するランキングですが、全国に1,700を超える市町村があり、その中で能美市は全国第30位です。それだけ健康づくりに関心があるということでもあります。住みたい田舎というランキングでも1位をいただき、ほかにもいろんなランキングで能美市は上位に入っています。

人口がふえていると申し上げましたが、今後、人口が減ってくるということが予想されています。2040年には4万8,800人、何とか維持できるように、いろんなことをやっていきたいと思っています。

それからもう一つは高齢化率です。今、65歳以上の方々が全人口に占める割合は25%ですが、これが32%になると予想されています。2025年問題というのがありまして、これは団塊の世代の人たちが75歳以上になってしまうということで、本当に高齢化率というのが進んでいるという状況です。これを何とか食い止めていきたいということで、いろんな政策をやっています。

シティプロモーションというのは、市民の皆さん、それから市外の方々に能美市の魅力というものを発信していくというのがシティプロモーションといいまして、いろんなことをやっています。後からまたこのあたりについて説明します。

せっかくの機会ですので、能美市の課題について皆さんに紹介します。

移住・定住の促進と人手不足について、企業誘致が好調な反面、人手不足になっていまして、移住・定住と人手不足をセットにしたような政策を一丁目一番地として考えています。

次に高齢者や障害をお持ちの方、それからそんな方々の面倒を見ていらっしゃる方、いわゆる健常者、高齢者、障害者、介護をされている方、全ての皆さんが安心、安全、快適に能美市で暮らしていくために「我が事・丸ごと」の地域づくが必要と考えています。

それから、環境に優しい能美市を目指していますし、シティプロモーションということで能美市の魅力を発信、発掘したいと思っています。

移住・定住、人手不足対策では、Nチケット発行事業を考えています。これは能美市の企業に就職して、そして能美市内に住んでいただく方に、例えば、市内の飲食店で使ってもらえるような割引券や引っ越し代を安くするようなチケットを発行しようということです。

それから移住交流体験ツアーということで、能美市内に遊びに来てもらって能美市の魅力を感じてもらう、ただ来てもらうだけではなく1週間ぐらい住んで、能美市のことをいろいろと体験してもらおうということも考えています。

それから就職定住家賃補助事業というのは、今までは新しい家を建てた場合に最高額100万円を出していましたが、新たに能美市内の賃貸住宅に入られた方の家賃を助成することを考えています。

それから、人材確保について、1つ目は、就職説明会の開催支援事業があります。大手の企業さんは人事担当者がいて、いろんな説明やPRする冊子などを持っていたり、合同説明会にはなれていたりすると思いますが、地元の中小企業さんや小規模企業さんはそのようなものをお持ちではなかったり、どんなことを説明していいのかといった経験が不足していたりということで、そんな方々を対象に、企業説明会、合同説明会等でうまく人を呼ぶために、いろんな勉強会をしようというのが就職説明会開催支援事業であります。

それから、健康経営推進事業というのは、人材確保の面からも健康で働いていただくため、企業さんと能美市がいろいろ共同で社員さんの健康管理をしていくということです。

それから、省人化、省力化のためにITを活用する会社さんに支援をしていくIT活用促進支援事業があります。

それから、公共交通システム構築事業です。ことしタウンミーティングをずっとやって

きて、一番要望が多かったのは、公共交通、のみバスについてです。停留所まで遠い、ルートが悪い、バスがなかなか来ないということを本当に多くの皆様方からご指摘をいただきました。平成30年度に1年かけて、どんなルートにすればいいのか、どんなダイヤにすればいいのか、あるいは、のみバスだけで足りるのか、タクシー補助券を出さないといけないのではないか、あるいは、どこかの介護施設と共同しないといけないのではないかということをいろいろ検証したいと思っています。

それから、観光戦略会議というのを立ち上げました。来て、また帰っていくというのが観光ですが、それだけではもったいないということです。せっかく能美市を訪れていただいた方に、能美市っていいところ、住んでみようと思ってもらえるようなきっかけづくりや、能美市の会社を見て、こんな立派な企業があるのか、それなら働いてみるかなというところまでやっていこうということを考えています。

「我が事・丸ごと」については、3本の柱があります。

まず互助については市内には74ある町会、町内会の皆さんと一緒に互助をさらに推し進めていくということです。たとえば空き家マップを作成しようとしています。今まで空き家というのは、どちらかというと危険な空き家をいかに除去するのか、それから除去した後にどう有効活用していくのかということが政策の根幹でした。しかし、このたびの雪で、能登地方では空き家の水道管が破裂して市全体が断水に陥ってしまいました。能美市にもそんな危険性が潜んでいるわけです。そのようなことにならないよう、空き家マップをきちんと作成していくことをやろうとしています。

それから、総合的な相談支援体制構築事業では、市の相談窓口の整備をします。例えば、障害をお持ちの方、介護されている方が能美市に来て相談するとき、いろんな部署を順々に回る必要がありました。それでは大変ご不便をおかけしているということで、ワンストップで対応できるような仕組みをつくろうとしています。

それから、言葉が不自由な方、手話でお話をされる方もいらっしゃいます。市役所に手話がわかる職員をきちんと配置して対応するということもやろうとしています。

環境に優しい能美市ということで、いろんなことを考えています。まず造園屋さんが木を切ったり街路樹を切ったりしたときにでる剪定枝が年間1,000トン出ます。全部焼却、美化センターで燃やしていますが、もったいないので、それを今度、炭にしようとしています。炭にして土壌改良剤として使ってもらい、能美市の特徴ある農作物をつくってもらえないかという循環型の社会を考えています。

例えば広葉樹と針葉樹からつくった炭では成分が違います。広葉樹も針葉樹もいろんな種類があります。それから、年間を通して同じ量が出るわけではありません。やはり秋口に多く出るので、まず1年間通して、どんな種類の樹木がどんな量で、どんなタイミングで出てくるかということをいろいろ調べていこうということを考えています。

私の思いからすると、能美市独自の炭をつくりたいと思うのですが、例えば丸いもの皮やユズの皮は捨てられたり、そのほかに利用されたりしていますが、十分利用されていません。能美市ゆえ出てくるいろんなものを剪定枝とまぜて発酵させて炭をつくれなかなと考えています。こういったものでつくった農作物を例えばふるさと納税の返礼品に使ったり、皆さんのお土産にしたり、ご家庭で食べてもらいたいなと思っています。

シティプロモーションということで、能美市の魅力を県内外に発信しています。まず、ことしは能美市写真コンテストをします。皆様が撮った写真を能美市のホームページやいろんな広報に使いたいなと思っています。採用されたらすてきなプレゼントを差し上げることも考えています。

それから、能美市というのは競歩のまちです。鈴木雄介君もいますし、それから20キロの大きな競歩大会もあります。それから、能美市内には競歩の練習をするのに大変いいコースがありまして、そこを使って能美市は競歩のまち、競歩の聖地ということをどんどんPRして、何とか東京オリンピックの競歩の合宿を誘致できないかなと考えています。

それから、能美市特産品活用事業ということで、例えば丸いもとかユズなどがありますが、食べてもらうところが残念ながらそんなにありません。例えば、特産品を使って新たな事業を起こすところを支援していくことをやろうとしています。

それから、能美市のホームページ、余り評判はよくないです。それを1年かけて新しいものにしようとしています。

辰口図書館の隣に辰口中央児童館をつくります。総事業費が約9億円です。電車が置いてある、あの辺りをきれいに整備していった多くの皆さんに集っていただけるような場所にしたいなと思っています。2019年、来年の5月に開館の予定です。

能美根上スマートインターチェンジが3月25日にいよいよ供用開始になります。北陸自動車道が通過する石川県内の市でインターチェンジがなかったのは唯一、能美市だけです。やっと悲願が達成されるわけです。これまでは能美市民でインターチェンジまで10分で行ける人は全体で16%しかいなかったのですが、能美根上スマートインターチェンジができれば79%に上がります。それから、観光地へのアクセスもよくなりますし、あと高度医療

機関への救急搬送時間が短縮され、それだけ助かる人が多くなるということがあります。

それから、万一災害が起きたときも避難物資や補給活動の支援になります。

それから、ランドマークになります。例えば、能美市役所を地図上で示すときに、「どこから何分です」ということを示す大きな目印になるようなものはありませんでした。ところがスマートインターチェンジができれば、「市役所まで能美根上スマートインターチェンジから車で15分です」ということを示すことができます。

和田山周辺に博物館をつくります。この辺りには防災センター、警察署、さらい、すば一く寺井があります。博物館をつくることで、この辺全体が活性化されると思います。能美市内には5つの大きな古墳がありますが、なかなか市民の皆さんに足を運んでもらえないということで、ここに博物館をつくり、古墳めぐりツアーのようなものをつくって皆さんにいろんなところを回ってもらいたいという思いがあります。デザインは木目調にして古墳にぴったり合うようなものを考えています。2020年、東京オリンピック・パラリンピックの年には何とか完成させたいと考えています。

辰口中央小学校の子供たちに能美市のポスターに出てもらいました。子供たちにポスターに出たりビデオに出たりして何か人生変わりましたかと聞いたところ「何も変わらない」と言われましたが、「絶対いいことあるし、みんな待っていてね」と言ってきました。本当に明るい子ばかりで、能美市は、こういう明るい子供たちで支えられているのだなということを改めて実感しました。

【司会】

それでは、ここからは能美市連合壮年団事務局長に司会進行を譲りたいと思います。

【能美市連合壮年団事務局長（以下「事務局長」）】

では、まちづくりの集い、地域づくりの集いで出てきた意見のうち、意見が多かったものを10項目に集約しました。先ほど市長が申し上げた5つの柱に当てはまるものではないかと思っています。

この後の進め方は、先ほどの10項目について、一つ一つ壮年団から提案し、その理由を言います。そして、それに対して市長の考えや思いをお聞きし、また皆さんから意見、質問、感想等をいただきたいと思います。

それでは、まず1つ目です。「壮年団をみんなに知ってもらうために」ということで、壮年団活動を発信するホームページをつくってもらえないか、その運営を市に手伝ってもらいたいという意見がありました。理由は、広報のみ等で全戸配布して周知したいのです

が、それだと手続にとっても手間がかかります。また、それだけでなく婦人会等、各種団体がPRできる場として活用できればという理由からです。

【井出市長】

まず、いいと思います。ただ、どんな形ですかだと思います。やり方とすると、バナーをつけて、そこからリンクするという形になると思います。今、能美市のホームページを見直しているところです。

いろんな方がホームページにアクセスされます。例えば、この間、雪がたくさん降ったとき、まず皆さん一番関心があるのは雪への対応がどうなっているのかだと思います。小中学校が休校になるのか、雪捨て場がどこにあるのかということをもっと見たい、それがホームページに求められます。

あとは暮らしのことで、ごみ捨てはどうなっているのか、あとは観光に行きたいけど能美市にはどんな観光地があるのか、それから能美市の税金はどんなものがあるのかについてなど、ホームページにはいろんなものを盛り込んでいかななくてはならないということが求められてきます。

そんな中で、能美市のホームページのトップ画面に、最初に壮年団の活動紹介があるというのはなかなか難しいのかなと思います。壮年団は、探すときのキーワードをまず整理をしてほしいなと思います。3回ほどクリックしたときに壮年団のページに行くことになると思いますが、どういう順番で壮年団のところに行くのがよいのか、皆さんで話し合っ

てほしいと思います。それから、皆さんが何を伝えたいのかについて、「こんな事業があります」ということでは恐らく現職の壮年団の方々しか見ないのではないかと思います。皆さんがホームページを使いたいというのは、壮年団員をふやす、あとは事業に参加してもらう方をふやすということが目的だとすると、どんな構成にすればいいのかということぜひ皆さん方で話をさせていただいて、我々のほうに相談に来ていただければなと思っています。

【事務局長】

市長がおっしゃったように、壮年団員をふやすということが一番の目的です。市長のご意見、どういう順番で、どんなことを載せたらいいかということも踏まえて、お隣の席の人と話し合ってみてください。市長だけではなくて双方向で話をしたいと思います。

そうやってお隣と話していただくことだけでも意義があると思います。代表いたしまして、次期寺井校下壮年団長ご意見をよろしくお願いいたします。

【次期寺井校下壮年団長】

ホームページを活用してアピールしていきたいということで、壮年団でもいろいろ話をしながら、こういうふうに応用してほしいということを市にもお願いしていきたいと思っています。

まだまだ高齢の方がホームページを活用するのは、なかなか難しいところもあると思いますけれども、市で市民の方に操作の方法などをアピールしていく、また教育していく、そういったことはお考えでしょうか。

【井出市長】

まず今は、得たい情報に行くまでに何回もクリックしないとたどり着けないということがあります。どこにその情報があるところがわかりづらくなっているので、クリック数を少なくできるよう整備しているところです。また、いつの間にか能美市のホームページを開いていたという工夫をしたいと思っています。ご存じかもしれませんが、市内にたくさんポスターが張ってあります。グリーン色のシールに携帯電話をかざすと自動的にホームページに飛ぶような、そんな仕掛けもしてあります。このように能美市のホームページを活性化していきたいなと思っています。

【事務局長】

ぜひまた壮年団の活動を市のホームページに載せられるようにしていきたいと思います。

次の提案は、壮年団のブランド化です。これはボランティア活動ではありますが、これからの世代の人たちのことを考えたら壮年団に特権をつけてあげるべきではないかと思います。壮年団の増員がまちの活性化ということにつながるとしています。また、残念ながら市の職員も全て壮年団員ではありません。入ってもらうためにも、例えば役所内でも給与面での特権などがあれば市職員の壮年団員増加にもつながるのではないかと思います。

【井出市長】

まず、壮年団の方だけを対象にしたポイント制や共通パスポート、無料券発行というのは、なかなか難しいかなと思います。市内には例えばボランティアに取り組んでいる方がたくさんいます。ボランティアというのは、あくまでも無報酬というのが前提ですがポイント制にしたかどうかという議論がされています。やはり最終的にはボランティアというのはあくまでも無報酬だからということでポイントをつけるということには至っていま

せん。

もしこういった制度をするということになると、青年団、老人会などいろんな団体の方がいるので、壮年団だけということにはならないと思います。同じような取り組みをされている方、ほぼ全員を対象にすることを考えていかななくてはならないと思いますので、同じような活動をされている皆さん方と相談をしながらここは考えていただければなと思います。

それから、市の職員の壮年団員について、きょうここにも市の職員の方がいると思いますので、皆様方からお誘いいただければなと思います。市長から、「壮年団に入りなさい」ということはなかなか言いづらいので、実際にそこに入っている方がみずからが市の職員に、壮年団というのは大変すばらしい団体である、しかもいろんな情報を共有できると言ってもらえればと思います。

私も壮年団に入っていた時期がありまして、例えば仕事を超えていろんな情報を共有できるわけですし、それから先輩、後輩とも面識が広がるわけであります。それから仕事のことだけでなく、家庭、子育てについて、いろんなことを相談できます。そんな機会が壮年団にあると思いますので、ぜひ市の職員に限ったことではなくて、皆さんにとってそれが壮年団の魅力、あるいは特典だと思っています。そんなことをお伝えして、さらに活性化していただければなと思っています。

【事務局長】

市長がおっしゃったことをそれぞれまた各地域の壮年団でお話ししていただければと思います。これはまた検討していただくということで、次に行きたいと思います。

次は、各校下壮年団の統一です。根上、寺井、辰口の全部を統一して、能美市連合ではなく能美市壮年団として事務局を市に置いてもらうことはできないか。PTAは事務局が市にあります。そういった形で置くということができたらという提案です。理由は、正直、メインイベントの各行事をこなすことだけに追われているのが現状です。校下で重なっている行事等を精選、統合してスリム化すれば、地域の諸活動の時間に充てること、我が町、我が地域への協力体制を強化することができるのではないかと。また、市に事務局があるといろいろと連携がしやすく、市の活性につながるのではないかとという意見です。

【井出市長】

3校下を統一することもいいのかなという思いがある反面、それぞれ校下ごとにあったほうが結束力は強いのかなとも思います。それは皆さんでお話をしていただければなと思

います。

事務局を市に置くということですが、これも壮年団の事務局を市に置くということになりますと、同じような団体の方々から同じように市に置いてくれということになることをちょっと心配しています。市の職員が事務局的なことをやっている地区もあるという話を聞いています。それもぜひ市の職員と壮年団の皆さん方がどうすることで一番壮年団の運営がしやすくなるのかということを話し合っていいただければと思います。

具体的にどんなお仕事があるのか、そんなことをもう少し分析していただいて、市のほうでお手伝いしたほうがスムーズにいくということがあるのであれば、市がお手伝いをすることはやぶさかではありません。まずどんな仕事があるのか、それが本当に市に事務局を置いてやらなくてはならない仕事なのかということを教えていただければと思います。

【事務局長】

ありがとうございます。寺井校下壮年団では、統一していいのではないかと、聞いたところ皆さん賛同していただきました。ほかの校下は、ひょっとしたらまだ話し合いがないかもしれません。お隣の方とこのことについて話し合ってみてください。

【能美市連合壮年団団長】

市長、事務局をすぐに置くというのは難しいとは思いますが、壮年団として窓口が一つあってもいいのかなと考えています。いろんな事業をする中で、各部署に対応してもらっていますが、今後イベントや事業をやるとなると、がっちりした体制、一つ窓口があると今後進めていけるような気がします。その辺はいかがでしょうか。

【井出市長】

相談させていただく窓口、それは専用のところを設けるというのはできると思います。ただ、どんな内容を相談されるのかということだと思います。事業をしたいが、どうすればいいのかということであれば我々の窓口で相談できると思います。壮年団員をふやしていきたいといった相談に乗ってくれということであれば、お話を聞くことはできるかもしれませんが、なかなかサポートするということとはできないと思います。

事務局ということになると、いろんなことを市でやらないといけないと思います。できることは市でもするし、壮年団でしていただきたいことはそちらでやっていただくといったことを、もう少しきちんとお互いに分析すればいいかなと考えています。

【事務局長】

それでは、根上校下壮年団員様にご意見をいただきたいと思います。よろしくお願

ます。

【根上校下壮年団員】

自分の経験からいくと、能美市のPTA連合会会長をしていたときに思いました。それぞれ根上代表、寺井代表、辰口代表ということで集まって物を進めるということが結構大変だった気がします。引き継ぎも大変で、事務局もなかなかついていけないということを感じました。事務局としてわかる人がずっと継続して引き継いで指示してもらえると、スムーズに運営ができる気がしました。

壮年団にとってそれがいいのかわからないですが、その辺、一度壮年団としても精査する必要があると思います。例えば根上で海の掃除をして、寺井で和田山を掃除して、辰口で物見山公園を掃除するという同じことを季節が違うときにすると、それぞれに出ていくという負担があるので、その辺を一度みんなで壮年団でも考えてスリム化して、参加しやすいようにしたらいいのかなと思います。そのためにも事務局や運営で市にも協力していただけると、スムーズに今後も進めることができるのかなと思います。今すぐに事務局を市に置くというのは難しいかもしれませんが、また相談に乗っていただければありがたいと思います。

【井出市長】

事務局といいますと、いろんなことが事務局のほうに来てしまいます。例えば壮年団の団員数をふやしたいので事務局が何かしてと言われても、これは市のほうでなかなかできません。それから、皆さんのところに案内をしたいので、市から全部郵送で出してくれと言われてもできません。でも、例えば事業をやっていく上で、何月何日にするのか、どんな内容なのかといった相談であれば、市に相談してもらえるような体制は整備していると思います。おっしゃるとおり事務局といいますと本当にいろんな仕事があるものでもう一回それを整理していただいて、市ですること、それから壮年団ですることをもう一回整理して、同じテーブルに着いて判断していきたいなと思います。

【事務局長】

例えば、能美市環境デーといったように、その日に海岸清掃、和田山清掃、物見山清掃というようにするのも一つということですね。

では次は、ちょっと楽しい提案です。市内で飲み食いしやすくするためにということで、先ほど出ましたのみバスで市内飲食店等を回れないかということです。利便性を高める、例えば、シーズン限定で、週末限定で運行すれば、市内での飲食推進となり、客がふえ潤

うのではないかという提案です。

【井出市長】

いいですね。問題は、どれだけ乗ってもらえるかなという話です。たくさん乗っていただけるのであればバスを運行します。それだけ需要があれば運行するのですが、運行しても1人か2人しか乗ってもらえなかったらいけないので、実際にどれぐらいの需要があるか、またぜひ教えてください。

【能美市連合壮年団事務局長】

これについて意見とか質問等はありませんか。例えばタクシーの券など、こういうのはどうだという意見はありますか。

【辰口校下壮年団員】

市内で飲み食いしやすくということで、夜間の運行なんかどうでしょうか。例えば、市には余り飲食店、飲み屋さんがありません。小松市とか金沢方面からもお客さんが来るように、能美市内でお酒を飲んで、帰りもそのバスを利用してもらい、能美市にお金を落としていただくような、そんなルートを夜間でも運行していただけないかという思いもあります。

【井出市長】

私もそんなのがあればいいなと思いますが、全てどれだけの需要があるかなんです。

ちょっと話を広げると、タウンミーティングをしている中で一番多かったお声が公共交通のみバスへの要望・提案でした。ある会で、100人ぐらいの高齢者の方と話をする機会があり、そこで皆さんに質問しました。「週に二、三回のみバスに乗る方は手を挙げてください」と言ったらお2人ぐらいでした。一回も乗ったことが無い方はほぼ全員です。車に乗る方、高齢者でも車を持っている方は、ほとんどのみバスを使いません。こういう実態が一方ではあります。

金沢市から能美市までのバスが運行すればいいとは思いますが、民間の会社が運行することになるので、結局、何人が乗るかということになります。

私もよくバスを使っていました。松任までは結構乗っていますが、能美市まで行くのは一人ということもありました。結局、どれだけ需要があるかです。のみバスに乗って飲みに行きますと言う方がどれだけいるかです。今、のみバスの平均乗車人数は7人ですので、それがぐんと伸びるのであればどんどん動かすことができます。どれぐらい需要があるか、また教えていただければということです。

【事務局長】

能美市のワゴンを借りて交代で運転してはどうかという意見もありました。そういうことも加味しながら、また考えていきましょう。

それでは次に行きます。全国に能美市を知ってもらうために、全国的なトライアスロン等の大会を誘致、実施してはどうでしょうか。そこで能美市の特産品を振る舞ったり、市内の宿泊施設に泊まってもらったりすることで能美市のよさを体感し、味わってもらえるという意見です。

【井出市長】

何か全国的な大会を誘致したいなという思いはあります。何がいいかなということですが、トライアスロンは珠洲がやっていますね。だから何かいいのがあれば提案してもらえればなと思います。

全国的な規模のイベントでは、6月に銃剣道があります。それから3月に競歩大会もあります。そんなイベントをどう活用すればいいのかなということを思案中です。まず銃剣道、競歩大会にたくさん人がいらっやっていますので、そんな方々に能美市の中で少しお金を落としてもらえるような、こんなことをすればいいのではないかという提案があれば教えてもらいたいなと思います。

【事務局長】

ちなみに、トライアスロンは能美市には海、川、山とあるから出た意見だったと思います。サイクリングも、また、先端大のあたりのコースがサイクリングコースとしては有名と聞いています。

では次に行きます。子供から大人が一日中遊べるまちにということで、一日中親子で遊べる場所、例えば大型遊具がある公園等を海、山、川といった自然がある場所の近くに設置すればどうかという提案です。そうすれば子供たちも市内の自然の豊かさに触れる、知る機会になり、ふるさと能美のよさを知ることにもなるという意見がありました。

【井出市長】

能美市には丘陵公園もあるし、いしかわ動物園もあります。私は子供を連れて一日中遊んでいました。ボート、大きい遊具、自転車もあっていいと思います。

あとは、今、つくろうとしている博物館は楽しんでいただけたと思います。この博物館には、子供が遊べるスペースをつくろうとしています。それから博物館というと、1回行ったら2回目は行かなくなると思います。この博物館はそんなことにならないように、リ

ピーターになってもらうようにしたいと考えています。

あとは、根上地区にはいいの広場があります。芝生があり、パークゴルフ、バーベキューもできます。遊ぶ場所は結構あると思います。

【事務局長】

ちなみに博物館には、遊具など、どういうものを設置するのかというのは決まっているのですか。

【井出市長】

博物館の中には、例えばブランコやジャングルジムなどではなく、能美市の歴史を感じながら遊んでもらえる、そんなスペースを考えています。

【事務局長】

では皆様方にこういうのがあったらいいのではないかという話し合いをしていただきたいと思います。

【能美市連合壮年団団長】

市長、先ほど話の中でありましたが、博物館では体験するような、そういうイベントが何回か継続してあるということですか。

【井出市長】

展示変えをします。博物館というと、（通常は）固定した展示でずっと変えませんが、何回も来てもらえるように展示変えをしたり、イベントをやったりして、来てもらえるようにします。

【事務局長】

秋常のほうに勾玉づくりの体験とかありますね。そういうのも体験したりできるようにはされないのですか。

【井出市長】

常時勾玉がつくれるようなことにはならないと思います。1年間の中で、この時期に古墳祭りをやって勾玉がつくれる、そんな体験できる日があるとか。そんなイメージです。

【事務局長】

わかりました。ありがとうございます。

【寺井校下壮年団員】

遊べるという観点から私も考えてみました。私はキャンプが趣味なのですが、能美市では和気にキャンプ場があります。私もあそこには何回か行かせてもらったのですが、今の

規格にそぐわないキャンプ場で、利用されている方も多分少ないと思います。あの辺をもうちょっと今に見合った規格とかにさせていただいて県外の方にも来てもらえれば、そこを起点にして能美市の博物館とか観光に行くとかというパターンも考えられると思います。そんなところも利用していければおもしろいのではないかと思います。

【井出市長】

私も趣味、オートキャンプです。テント、シェラフ、ランタン、全部持っていまして、キャンプのことを話せば延々と話をするのですが、私が思ういいキャンプ場というのは、携帯電話がつかないキャンプ場や、夏でも虫がいないキャンプ場です。そうすると、ある程度標高が高いところのほうがいいのではないかという気がします。人気のキャンプ場は温泉がそばにあります。それから戸建てのキャンプ場です。

そんなキャンプ場が能美市のどこかにできないか、私も一回考えてみたいと思います。ただこの辺は、虫が多いです。そこがどうなのかなと思います。

キャンプに関しては、またいろいろとご提案ください。私も興味があります。

【事務局長】

ありがとうございます。また和気のキャンプ場についても活用のあり方をご検討いただけたらと思います。

まちづくりとしての意見では、安心してウォーキング、ジョギングできるコース整備というのが多かったです。壮年団員でも真っ暗な夜間の道路を歩いている人を見かけるのが多くて、とても危ないと思います。時間限定で利用できるようなことができないかという意見がありました。

これについて、市長、よろしくお願いします。

【井出市長】

質問します。1年に1回、人間ドックを受けている人、手を挙げてください。1年に1回、健康診断を受けている人、手を挙げてください。案外少ないです。

実は、皆さんの世代はドック、健康診断を受けている比率が低いのです。全国的にも、能美市でも、働き盛りで、一番健康診断を受けてほしい皆さんが受けていないのです。ぜひ健康診断を受けてください。

日本という国は、2人に1人ががんにかかると言われています。がんというのは、昔みたいに治らない病気ではなくなっているのです、治るのですが、がんにかかっても早く見つければ、それだけしっかりとした治療が受けられますし、早く発見すれば早く復帰できる

ということもあるので、ぜひ健康診断、人間ドック、1年に1回受けてほしいとお願いをしています。

安心してウオーキング、ジョギングできるコースというのは、夜はできないのかもしれませんが、競歩の練習コースを整備します。辰口地区のところですが、皆さんにそこでジョギングだとかウオーキングをしてもらえるように整備していきます。

それから、体を鍛えるだけのウオーキングではなくて、楽しんでもらえるウオーキングコースを整備したいと思っていて、古墳の周辺にそんなコースを整備したいと思っています。らくらくコース、チャンピオンコースとかいろいろつくって、アップダウンを楽しんで、歴史を感じながら楽しんでもらえる、そんな場所を整備したいと考えています。

夜になると、どこかに電気をつけないといけないでしょうが、電気をつけるとなると、町内会が電気代を負担するのかとか、いろんな問題が出てきます。これはちょっと悩みどころです。

健康づくりということで、まず、早朝、あるいは会社から帰った後、土日に近所を歩くことから始めていただければと思います。まず、自分からできる健康づくりから始めてみてはいかがかなと思います。その中で、こんなことをしたほうがいいよというようなことであれば、またどんどんおっしゃっていただければいいと思いますし、ウオーキングコースだとかは、さっき言ったようなことを整備していく予定をしています。

【事務局長】

ありがとうございます。また競歩のコース等も周知されると思いますので、楽しみにしています。

では次です。ちょっと非現実的かもしれませんが、市立能美高校の設立です。特性を生かせる専門学科を設置します。以前たしか寺井高校にあったような気がします、陶芸、絵つけの学科等さまざまな学科の設置です。そこから有名人を輩出して能美市を有名にします。また市立だったらスポーツ特待生もとれるだろうと思います。そうすれば甲子園出場も現実的になるので有名になるのではということです。

また、寺井高校を甲子園常連校にすれば、その都度、能美市の紹介が放送され、知名度が格段にアップするのではないかという意見です。これも多かったです。

【井出市長】

市立能美高校、いい響きです。ただ、高校生が減っている中で、寺井高校が毎年のように調整校になっているのです。寺井高校は、卒業する中学生が多いときには、クラスがふ

え、少ないと減らす高校として南加賀地区の対象になっているような現状です。何で寺井高校がそんなことになってしまうのか、私も寂しいです。

そんな状況の中で、市立能美高校というのはなかなか難しい気がします。中学生がどんどんふえてくれば、ぜひこんなことを考えてみたいなとは思いますが、今の少子化の時代の中で新しく高校をつくるというのは、なかなか難しいと思います。

次に去年は寺井高校創設以来、初めて甲子園に行けるのではないかとということで、OBの方々、在校生の方々、我々も期待をしていましたが、本当に残念だなと思います。

関連することではないですが、私のある思いをこの場で話をさせていただきます。能美市出身の京田陽太選手は名古屋ドームで、京田陽太、出身、石川県と電光掲示板に出ます。あれを石川県能美市としてほしいと、中日のオーナーにお願いもしました。電球の球を10個ぐらいふやすと能美市と書けるのではと話をしていましたが、あそこに石川県能美市と出れば少し能美市が有名になると思います。

相撲では石川県鳳至郡穴水町出身、何とか部屋と言っているわけです。相撲していて何で野球はそうしてくれないのかなということで、ぜひ皆さんと一緒にその機運を盛り上げていきたいと思いますので、ご声援をお願いします。

【事務局長】

では、最後になりますが、これもちょっと楽しい提案ですので、よろしくお願いします。

国造ゆずまつりに歌手のゆずを呼んではどうかと。ゆずを呼んで歌を歌ってもらう。場合によっては歌もつくってもらう。そうすれば全国区になり、ゆずといえば能美市になり、そして有名になれば、後継者不足解消になります。全国から募集すれば集まり、活性化するのではないかという提案です。

【井出市長】

ゆずさんと石川県に何かゆかり、関係があれば来てもらえるのかなと思うし、呼びやすいとは思いますが。

能美市には観光大使、観光特使がいらっしゃいます。名誉大使が松井さん、大使がハンディやしきさんと、大月さゆさんと、多嶋沙弥さんです。大月さゆさんは、宝塚を出て今女優をされていて、その人に能美市のPRビデオに出てもらったり、3月25日のイベントで司会をしてもらったりしてしまして、能美市に何かゆかりがあったり出身だということになると、お願いしやすいです。

ゆずさんに、「ゆず」やし、うちのユズを歌ってといっても、ユズは全国に産地がたく

さんあるので、何かこうだからという理由づけがあると、ゆずさんも来やすいだろうなと思うので、そんなまた提案もしてもらえればなということです。

【事務局長】

ゆずと石川県のご縁を何か情報がありましたらぜひ教えてください。

【辰口校下壮年団員】

能美市の国造ゆずをPRしていますけれども、まだ認知度は低いかなと思います。ユズ畑が一体どこにあるのか知らない方が多いと思います。その辺も含めてPRが必要ではないかなと思っています。

【井出市長】

「ひぼ能^のん」「ゆず美^みん」、能美市の公式キャラクターです。全面的に、「ひぼ能ん」はユズをかぶっているし、「ゆず美ん」はユズをイメージしています。全面的にPRしようとしています。

「ひぼ能ん」はカバと丸いものをイメージしています。「ゆず美ん」九谷焼の五彩のワンピースを着ています。今後いろんなところに登場させますし、能美市のコミュニティバス、のみバスにラッピングで出します。ユズを全面的にやろうとしています。

それから冒頭申し上げたように、ユズをもっと活用して新たな特産品ができないかなということを考えています。お菓子に入れたり、いろんな料理に入れたりといった、いろんな戦略を練っていますので、またいろいろアイデアがあつたらぜひ教えてほしいなと思います。

【司会】

それでは最後に、井出市長がご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

本当にいろんなご提案をいただきました。ありがとうございます。壮年団の皆さんには、いろいろとお世話になっているということも改めて御礼を申し上げたいと思います。根上地区、寺井地区、辰口地区、それぞれに清掃活動をしていただいています、それによって遊び場や憩いの場を求めていらっしゃる方が気持ちよく利用できています。壮年団の皆さんのおかげだと思います。それから、皆さんの存在というのがそれぞれの皆さんの町の活性化につながっていると思います。運動会、文化祭、お祭り等々、いろんな場所で皆さんが下仕事、準備をしているからこそ町のいろんなイベントが成り立っていると思っています。

能美市というのは合併して13年になるのですが、能美市全体でやっているイベントというのはそれほど多くありません。例えば運動会といっても、スポーツフェスティバルといはそれぞれの地区でしています。そのほかの行事・イベントも大体それぞれの地区で開催しています。ぜひ壮年団の人が中心になって全能美市民を対象にしたイベントか何かやってもらえないかなということです。

実は、合併前は根上、寺井、辰口時代はそれぞれの町で新春互例会をしていましたが、能美市になってそれがなくなっていました。ことし、能美市合併して初めて新春互例会をしました。会場の大きさの問題などいろんな制約があつて、特定された方々だけを対象にしましたが、そんなことを始めています。

例えば、お祭りや大きなイベントにおいて、能美市壮年団のようなところが中心になって、全能美市民を対象にした、そんなことをやってもらえないかなということをお願いしたいなと思います。